

## 上級研究員センターの創設による人材養成 (実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：愛媛大学（総括責任者：柳澤 康信）

### プロジェクトの概要

「学生中心の大学」の実現を目指しつつ、先端研究を持続的に発展させるために、若手教員を自立的な教育研究者として育成できる養成システムを構築する。そのためインキュベーターとして国内外から公募した若手研究者からなる上級研究員センターを設置する。自立性を保障された研究者は、本学の最先端研究を推進する 3 つの研究センターで先端研究を展開する。同時に、教員としての素養を身に付けるために大学院・学部の教育にも携わる。学部の教授・准教授に偏った教員構成を是正するため、定員の一部を助教に振り分け、上級研究員センターの財源とし、准教授候補者育成のための上級研究員センター制度をつくる。

### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	国際公募・選考・業績評価	人材養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人材養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	実施期間終了後における取組	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

初年度 6 名のテニユアトラック若手研究者（以下、「TT 若手」という）の内 5 名を自機関のテニユア職に採用するなど、テニユアトラック制（以下、「TT 制」という）が人材養成に効果の高いことを明らかにして、学内の意識改革を進め、平成 25 年度から、新規採用の若手教員（文系は講師以下、理系は助教）のうち、医学系研究科の臨床系及び附属病院の教員を除くすべての教員に独自の TT 制を適用するという新しい人材養成システム改革につなげていることは評価できる。

- **目標達成度**：先端研究・学術推進機構に TT 若手の所属する組織である「上級研究員センター」を設置し、総括責任者（学長）が主導する「人材育成・テニユアトラック制度検討委員会」などの組織が整備されている。また、自主的取組を含めて、公平性・透明性の高い審査によって外国籍 1 名、女性 1 名を含む 10 名の TT 若手を採用し、自立的な研究環境下で育成に成功しており、TT 制の意義の理解を深め、大学全体での人材育成の一環として TT 制を取り入れていることは評価できる。
- **国際公募・選考・業績評価**：募集分野に精通した国内他機関の審査委員を加えて、厳正で公平性・透明性の高い選考審査体制を確立している。また、テニユア審査も評価基準を明確にしており、高い業績を得た 5 名を自機関のテニユア職に採用していることは評価できる。
- **制度設計に基づく実施内容・実績**：複数のメンターとポスドクを配置し、研究環境の十分な整備が高い業績につながっている。また、教育・指導力の向上にも力を入れ、各 TT 若手が学

部の講義を分担しており、学部生・大学院生の指導や指導補助をほとんどの TT 若手が経験し、さらに教員としての基本的な能力開発のためにFD講習会も全員に受講させるなど、大学教員としての能力アップについての特長ある取組は評価できる。しかし一方で、いろいろな教育研究の特徴を持つ全学部局へ TT 制を導入するに当たっては、機関全体として整合性のとれた TT 制となることを期待する。

- **制度設計に対するマネジメント**：学長の強いリーダーシップで本プロジェクトが進められ、TT 制が有効な人材養成システムであることを認識し、全学の新規採用者への TT 制の適用による人材養成システムの導入という画期的な改革に至り、PDCA サイクルが適切に機能したことは評価できる。
- **実施期間終了後における取組**：学内コンセンサスを得て TT 制の全学展開を図っており、制度の今後の運営経費についても学内で確保していることは評価できる。今後は、全学への展開において、各部局の発展につながる人事制度革新となることを期待する。
- **中間評価の反映**：中間評価コメントは適切に反映され、TT 制を全学的な制度化という新しい制度設計につなげ定着化させていることは評価できる。